

第6回宮城県新しい公共支援事業運営委員会 次 第

日時：平成25年7月9日(火)

午前10時から

場所：宮城県行政庁舎6階 611会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 報告事項

- ・新しい公共支援事業の実施状況について

(2) 審議事項

- ・平成24年度(下半期)新しい公共支援事業実績報告書に係る評価について
- ・宮城県新しい公共支援事業事業計画の変更について

4 その他

5 閉 会

○説明資料

- 資料1 新しい公共支援事業の実施状況について
- 資料2 平成24年度(下半期)新しい公共支援事業実績報告書(案)
- 資料3 新しい公共支援事業の成果等報告
- 資料4 宮城県新しい公共支援事業 事業計画(変更案)

第6回宮城県新しい公共支援事業運営委員会委員名簿

分野	氏名	役職・所属団体等	備考
学識経験者	河村和徳	東北大学大学院情報科学研究科准教授	出席
	西出優子	東北大学大学院経済学研究科准教授	出席
中間支援組織	大久保朝江	特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる 代表理事	出席
N・P・O等	高橋賢一	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 震災復興支援局副参事	出席
	千葉和義	特定非営利活動法人Azuma-re 理事	出席
企業, 経済団体	村上和行	宮城県土地開発公社 専務理事	出席
	今野 薫	仙台商工会議所 理事兼事務局長	欠席
金融機関等	大関 均	優成監査法人 特定社員 営業統括本部長	出席
会計専門家	成田由加里	成田由加里公認会計士事務所 代表	出席
マスコミ等	谷藤仁史	河北新報社 紙面審査部	出席

※敬称略, 分野別五十音

第6回宮城県新しい公共支援事業運営委員会 議事録概要

日時：平成25年7月9日（火）

午前10時から午前11時まで

場所：宮城県行政庁舎6階 611会議室

(1) 報告事項

- ・新しい公共支援事業の実施状況について

(2) 審議事項

- ・平成24年度（下半期）新しい公共支援事業実績報告書に係る評価について
- ・宮城県新しい公共支援事業事業計画の変更について

(事務局より説明)

○成田座長

ありがとうございました。ただ今、新しい公共支援事業の実施状況について、それから新しい公共支援事業実績報告書に係る評価について及び新しい公共支援事業計画の変更について御説明いただきました。御質問、御意見を頂戴したいと思います。

○西出委員

説明ありがとうございました。

細かい点ですみませんが、資料1についてですが、平成24年度分は「評価」、平成23年度分は「自己評価」となっています。おそらく平成24年度分も「自己評価」の結果だと思いますので、訂正された方がよいかと思えます。

あと、資料2の4ページ目、「成果目標の達成状況」の(3)の「マルチステークホルダーとして会議体に参画する団体数」の「成果目標」の「151団体」とありますが、資料4の8ページの「成果目標」の中では目標値が133団体となっていて、数値が合わないのかなと思ったのと、資料2の御説明の時に、達成率が「161, 6%」とおっしゃっていて、そのような書き方をこちらにも書くとの根拠と合わせてわかりやすいかなと思えたのと、あと、最初の成果目標に書かれてあります「1事業当たり5団体×8事業, 1事業当たり3団体×37事業」以上とありますが、それに対する実績がどうだったのかですとか参画団体数の平均も出していただけるとさらにわかりやすいかなと思えました。

また、Cの評価をされているところについて、目標は全てC以上の成果報告等と書いてあるのですが、Cについて、そのまま何もコメントせずによいのかなということ、そもそも全て自己評価のみの評価でそのままでよいのかなと感じているところであります。

○河村委員

同じ資料2で7ページ目ですけど、コミュニティスクール事業の「一般」とありますが、他は「般」に統一しているので、「般」に修正した方がよいかと。

○事務局

はい、修正させていただきます。

○成田座長

それでは事務局から順番に回答していただきます。

○事務局

まず、最初の資料1の個別の団体の「評価」は「自己評価」に記載を改めさせていただきます。

それと、参画団体数の関係ですが、先ほどご説明いただいた8ページに133団体ありますが、こちらに加え、7ページ目に18団体とありまして、こちらは災害復興緊急事業ということで、モデル事業を2つに分けており、7ページ目の18と8ページ目の133を足すと151という形になり、これで延べ151団体以上となります。

○事務局

個別の自己評価は、団体が出してきたものをそのまま尊重しています。私どもが見ていても控えめなところもあれば強気なところもありいろいろなのですが、新しい公共支援事業という事業の仕組み上、行政がそこを判断するような枠組みにもなっていないということもあって、基本的には尊重してそのままおつけして、皆様に情報開示するという観点で申出をそのままお示ししております。

○河村委員

行政としては、出てきたものはオープンにして、次に判断するための資料ということですよ。

○事務局

世間に公表されることによって、世間に評価されていくという仕組みになっております。

○千葉委員

評価がなかなか表しづらいのかなと思います。

評価の基準はあったのでしょうか。

○大久保委員

文言で出ているだけです、「特に」とか。

○千葉委員

例えばSだとこれぐらいとかあると。複雑な事業が多いので難しいかなとは思いますが。

○河村委員

全国的に比較したら宮城はSが多くならざるを得ない。震災対応もあるので。

○事務局

この事業、他の県の結果が出そろってないので各県横並びで比べることが今はできないのですが。

○成田座長

後は、西出委員から、「マルチステークホルダーとして会議体に参画する団体数」、資料2の4ページのところで少し記載を追加された方がいいのではないかという御提案がありましたが、それについてはいかがでしょうか。

○事務局

はい、数字の根拠や割合等をも少し丁寧に記載させていただくということで修正させていただきたいと思います。

○事務局

達成状況と摘要欄に説明を追加で記載させていただきます。

○西出委員

概算払の割合が、目標に対して達成状況が低いので、目標に達しなかった理由を一言でも書くといいのかなと。請求が遅れたためというようなお話があったのですが。

○事務局

承知しました。その辺りを摘要欄に……

○河村委員

摘要よりも全体評価に入れておいた方がいいと思うんですね。どうしてAなんですか、Sでもいいのに。いやいやそういうことがあったのでAに評価しましたという理由づけとして、若干申請が遅れたとかあってうまくいかなかったところもあったのでAにさせていただきましたということで。要するに、Aになる根拠が、全体評価のところだと、落とす理由がないんですよ。読んでみるとプラスの話しか書いてないんですよ。マイナスの話としてその点を入れれば、だからAなんだねという書き方になる。

○事務局

そのように、全体評価のところに追加で記載させていただきます。

○千葉委員

フォーラムで発表する団体はもう決まっているのですか。

○事務局

具体的にはまだです。地域バランスに配慮して決めたいと思っております。

○大関委員

事業の進捗がいかないということで辞退した団体は何か、どういう扱いになっているのか。

○事務局

辞退ということで取下げですので、それを理由に交付決定を取り消したという処分をしていますので、基本的にここには数字として入ってこないことになります。今回2千万円ほど国に返還するというについては、交付決定額としては予算に合わせて交付決定しているのですが、やっぱり使い切れなかったNPO団体がけっこうございまして、一般の会社や団体に対する補助金ではこんなに使い残すということは通常はあり得ないのですが、NPOへの補助というのは特殊な部分があるという印象です。

○河村委員

大学の研究員もそうですが、事前に研究していることが前提で、ある程度自腹を切って事業をやるのが前提なのですが、この事業はどうしてもそこまでの規模をやったことがなくて、自分たちで立て替えができない、立て替えできればもっとやれるのに……

○千葉委員

単体の団体が申請して事業を行うには自分たちの考えで起こせるのですが、協議体と会議体を含めた事業の進め方ですと非常に時間と合意形成にかなり労力が必要な部分があって、事業を一つやるのにもあまだ、こうだと始まったりするので、だからこそ新しい公共ができる仕組みができたのですけれども、そういった部分で非常に難しいところがあったのではないかと思います。

○大久保委員

ある意味NPOらしいのではないかと思います。予算を使い切るような活動をしていませんから。予算は予算どおりに使い切る話ではなくて、通常、だから、NPOは予算準拠主義になっていないのですから、もちろんオーバーするかもしれないし、余るかもしれないというのは活動に合わせた資金の出し方だとNPOの例だと思います。それはそれでいいのではないかと思います。

○大関委員

そういう事実があるということも触れてもいいのではないかなと思います。

○事務局

途中で辞退をして取り消すようなところもあったということですね。

○高橋委員

今の話だと、NPO的にやって当初の予算を上手に節約したといいますか、いろんな工夫で予算どおりにやらずに総予算が減額になって、やれなかったというのもあるし、プラスでうまく効率よくやったというの、全額使い切らなかったという理由でプラスなのではないかなと。

○事務局

たしかに。

○大関委員

当委員会がガバナンス機能も働いていたんですよというのはアピールしてもいいのかなと。

○事務局

その辺、実際どう書くかについては座長とすり合わせをさせていただくということによろしいでしょうか。

○成田座長

今回はじめてこういう形で震災復興関連も含めたNPOに対する支援をやりまして、いろんな課題が出てきましたので、NPO側でやりきれない理由というのが多分にございましたし、人材の育成が必要なのではないかとか、例えばですけれども、そういった課題に沿ったところを書いていただくと、この事業はこれで終わりになりますけれども、引き続き協働支援社会を作るというところでは、委員会としては一言申し上げたいところはございますので、よろしければそれをうまくうめ込んだ形で作ってください。

○事務局

分かりました。修正した文面の原案を作りまして、座長の方と実際の書きぶりは調整させていただくということで。

○河村委員

あと一点、法人化を促されたという話も最初の頃ありましたよね、たしか。例えば、NPOの法人を取るとか社団法人を作るとか。そういうところが資料としてあるようだったら資料としてあった方がいいのかなと。

○事務局

たしかにいくつかございます。分かりました。その辺についてもこの事業の利用を契機に法人化したということを入れ込みたいと思います。

○成田座長

評価については、達成目標という定量的な評価と、今お話しがあったように定性的にこういうことが実際あったとか、最初は少なかったけど最後はものすごい数が来たというところでの盛り上がり感といいますか、この事業としては非常にいい成果が得られているという定量的な部分をお書きいただいて、最後に伝えきれなかった点にふれていただいて、課題も残っているというところで、まとめていただけるとよいと思います。

○事務局

分かりました。もう少し充実した内容に変えます。

○村上委員

参考までに、自己評価のBとCについてですが、BとCに自己評価したところのポイントを簡単に説明してもらえないでしょうか。

(事務局から、自己評価がBとCの各事業の成果の要点等について説明)

○谷藤委員

私は、地域的な偏在があるのではないかということの前から言っていたのですが、新聞報道を中心にして見ると、NPOの活動がうまくいっている自治体とうまくいっていない自治体があって、例えば岩沼市はNPOの活動を非常にうまく取り入れているなあという感じでそれが海岸の、森づくりにも活かされているし、東松島市なんか立ち上がりが遅かったような気もしますが一つの形ができ上がりつつあるのかなと。南三陸は大きなNPOが入ったりして、非常にそういう意味では、うまくいっているところとうまくいっていないところの差が非常にこうはっきりしてきたのかなと。私たちも、そういう意味では、その地域に新しい公共という形でどれだけサポートできるのかということで、私も委員として直接的な被災者復興支援みたいなものには携わっていなかったけれども、こういうことを通じて携われたらいいと常に考えながら、やってきたし、この自己評価に目を通して、私たちが心配していたことが現実になっているものもあるが、少しずつでも前進しているところもあるなという感じをしております。そういう意味ではよかったのかなというのが感想です。

○成田座長

では、この報告書の修正につきましては、文言に関し私に一任いただくということで、後は事務局と調整させていただきまして、事業計画につきましては、特に修正はなしということでよろしいでしょうか。

(異議なし)

皆様ありがとうございます。では議事の内容につきましてはこれで終了させていただきたいと思えます。ご協力ありがとうございました。

では進行を事務局にお返ししたいと思います。

○事務局

次に、その他として事務局からは特に準備したものはございませんが委員の皆様から何かお知らせしたいもの、取り上げたいものがあればよろしくお願いします。

○大久保委員

8月に行われる成果普及のためのフォーラムに出てきて発表してもらった団体は、25年度になってきちっと成果が上がって継続されているところに報告していただきたいと思えます。24年度で事業自体が終わってしまったような団体も見受けられます。新しい公共は次につなげるための資金として出てきたものなので、やっぱり次につながっていく形を示すということがいいと思うので、そういう視点で選定をお願いしたいと思います。

○事務局

はい。

○河村委員

次にどういう補助金を取っているのかなども確認した方がいいかなと思います。

○事務局

6階の企画部の方で県単独でこれと同様の補助金を作って4月に募集したところ、瞬く間にうまったということで、6月の議会でまた補正予算を組んで、また2次募集を始めています。

○西出委員

事業がどんな風に次につながったのか、こんな風に次につながってますということもわかるように示していただいた方がいいのかなと思ったのと、成果報告書の配布というのは資料3のようなものをまとめて配布するということですか。

○事務局

資料3の成果等報告ですとか県でまとめた資料1の各個別事業の実績の概要等を基に成果報告書を作成することになります。ページ数は資料3よりもだいぶ減ると思いますが。

○高橋委員

地域的には、仙南の方の内陸がやはりちょっと弱いなといつも思っていて、被災を受けたところはやらざるを得ない、やる気もあるし支援もあるしということで非常に多くなったのですが、ぜひ県南の行政マン、やはり宮城ってどうしても行政マンが一押ししてくれた方がいいのかなと、後ろで支えるよって言ってくれた方が、ボランティアやNPOも動きやすいのかなと。ほんとは逆なのかもしれませんが。8月29日、私も出席するつもりですが、県南、岩沼辺りにも一緒に来てっていう感じで案内してもらえたらいいなと思います。

○事務局

承知しました。

○事務局

それでは、以上を持ちまして第6回新しい公共支援事業運営委員会を終了いたします。ありがとうございました。